

キウイフルーツの果樹カメムシ類による果実被害

キウイフルーツを加害するのはチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシの果樹カメムシ類と呼ばれるものが主である。幼果期に加害を受け発生する果実の亀裂やコブの症状は知られているが、果皮下に発生する濃緑色の斑点についてはあまり認識されていない。

○果樹カメムシ類



写真1 クサギカメムシ



写真2 チャバネアオカメムシ

○幼果期の外観に現れる症状



写真3 コブ症状



写真4 亀裂症状

6月中旬の放虫試験では、コブ、亀裂の両症状が発生した。亀裂症状は7月中旬の放虫試験でも発生したものがあ
り、早い時期ほど症状が顕著に表れた。

○果皮下の斑点症状等



写真5 濃緑斑



写真6 内部のスポンジ状症状

7月に放虫し加害させた果実の果皮を収穫期に剥くと、水浸状痕や内部が白くスポンジ状になっているのが確認された。6～10月のいずれの加害によっても、果皮下に水浸状痕が発生し、収穫期まで残った。

防除は、外観に被害が多く発生する幼果期を中心に行う必要がある。夏場以降の加害では外観の被害は見えなくなるが、果皮下の被害症状はいつでも発生するため、果樹カメムシ類の発生が見られたら、防除を行う必要がある。